



突撃!

リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

2018
2月号

No.102 福井県立病院 医療安全管理室 看護師 師長 寺島富美枝様



【福井県立病院／福井県福井市】



【寺島様】

■病院の概要（抜粋）

- 昭和 25 年 4 月 福井県立病院創立
- 昭和 32 年 9 月 総合病院として承認される
- 昭和 46 年 1 月 全面改築
- 昭和 46 年 3 月 臨床研修病院として指定される
- 平成 10 年 1 月 災害拠点病院に指定される
- 平成 16 年 5 月 新病院本棟 開院
- 平成 17 年 11 月 病院機能評価認定取得
- 平成 19 年 1 月 都道府県がん診療連携拠点病院に指定される
- 平成 23 年 3 月 病院機能評価認定取得更新
- 平成 25 年 4 月 人間ドック・健診施設機能評価認定取得更新
がん医療センター移転拡充

【病床数 880 床】

■病院基本理念

私たちは、総合的かつ高度な医療の提供を通じて、県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします。

■病院基本方針

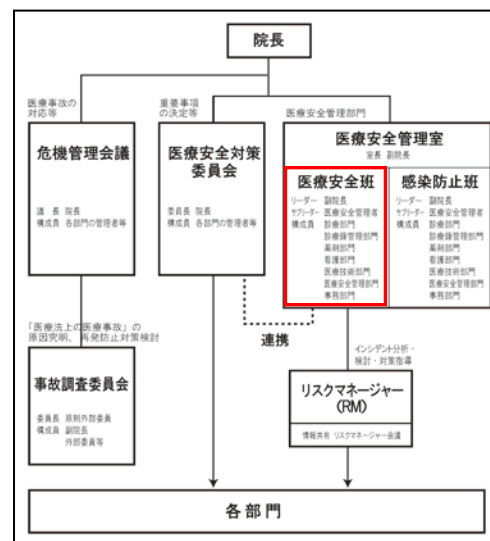
1. 心身ともに全人的な医療を提供します。
2. 質の高い医療、特殊・先駆的医療を提供します。
3. 安全管理を徹底し、患者本位の医療を提供します。
4. 救命救急医療の充実をはかります。
5. 地域医療機関との連携に努めます。
6. 個人情報適切な管理を行います。
7. 健全な経営に努めます。

1. 組織体制について

医療安全に関する組織体制について貴院の特色を含めて教えてください。

医療安全管理室は院長直属の組織で副院長が室長を務め、感染防止班と医療安全班に分かれています。

医療安全班の医療安全管理者が私の役割です。また、各部署にはリスクマネージャーが配置されており、各部署の医療安全推進者となって会議などを通してスピーディに各スタッフと情報共有ができる様に組織されています。



【医療安全管理に関する管理体制図】

主な業務内容を、院内各部署との連携を含めて教えてください。

医療安全管理者の業務は以下のように規定されています。

1. 医療安全管理部門の業務に関する企画および立案を行うこと。
2. 定期的に院内を循環し、各部門における医療安全対策の実施状況を把握および分析、必要な業務改善策等の具体的な対策を推進すること。
3. 各部門における医療事故防止担当者への支援を行うこと。
4. 医療安全対策の体制確保のために各部門との調整を行うこと。
5. 医療安全対策に係る体制を確保するために職員研修を企画および実施すること。
6. 相談窓口等の担当者と綿密な連携を図り、医療安全対策に係る患者さんおよび家族の相談に適切に応じる体制を支援すること。
7. その他医療安全管理の日常的な業務の遂行に関すること。

これらの業務の中でも、インシデントレポートの集計・分析・内容によっては業務改善計画書の作成、週に1回のカンファレンス参加で各部署との情報共有や、月1回の医療安全対策委員会での情報共有などが主な業務内容です。

2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

近年の事例発生件数の推移やその原因や対策について教えてください。

インシデント総数は約450件と例年と比較して増減はありません。病棟スタッフが過去の重大な事故や、アクシデント事例を基に医療安全対策に取り組んでいます。

人的対策の取り組みのひとつで、リスクマネージャー会議の中で構成されている6つのグループがあり、その中に「転倒・転落グループ」があります。「転倒・転落グループ」では、各部門の責任者など多職種10名がメンバーでインシデントレポートをひとつずつ検証して対策を検討して現場スタッフにフィードバックしています。タイムリーな対策がとれることで転倒・転落事故は減少傾向にあります。

特に注力されている貴院の特徴的な取り組みやシステムがあれば教えてください。

安全対策で工夫していることは、入院前の患者さんに「院内は安全とは限らない」という意識付けのため、自己チェック表を配布しています。そして患者さんとご家族に、入院前後に見て頂けるように「水戸黄門入院する」と題した注意喚起DVDを院内のモニターで放映しています。また、入院後のベッドに配置されるオーバーテーブルやサイドテーブルにランチョンマットにもなるプリントをおいて、患者さんの目につくように置き場所も工夫しています。安全な入院生活を送るために、スタッフと患者さん相互協力のもと頑張っています。



【入院用の注意喚起パンフレット】

3. 医療安全に関する研修および他院との連携について

医療安全に関連した研修の年間実施計画や内容について教えてください。

制度で決められた年 2 回の研修を実施しています。

「7:1 病床」見直しの関係で看護職・研修医が増えたことによるスタッフ間のコミュニケーション不足を感じているので、定例の研修とは別にコミュニケーションを重要課題として取り組んでいます。また、転倒・転落対策で使用する離床センサーは、患者さんを抑制せず、居室内の見えない行動をスタッフに報せてくれるツールであることを、改めて研修でスタッフに伝え続けていきたいと思っています。

地域病院と医療安全に関する連携があれば内容を教えてください。

年に 7 回開催される福井県看護協会の安全委員会で、他病院の医療安全管理者と情報交流を行っています。また年 2 回、福井県済生会病院・福井循環器病院・福井赤十字病院・当院の 4 病院で医療安全情報の交流を続けています。組織上、全国の病院から入ってくるさまざまな情報は、当院の対策に繋がることも多く大変参考になっています。

4. 離床センサーについて

【使用センサー】	コールマット・コードレス	× 78 台	サイドコール・コードレス	× 2 台
	ベッドコール・コードレス	× 2 台	座コール・メロディタイプ	× 1 台
	赤外線コール	× 7 台	徘徊ナビ・ポケット	× 4 台
【センサー合計】	94 台（病床数 880 床）			

離床センサーの選択基準やルールや導入後の効果を教えてください。

転倒・転落対策や、離棟・離院対策でセンサーを効果的に活用するために、ガイドラインを使用しています。

転倒・転落対策だけでなく、離棟・離院が課題でしたが、「徘徊ナビ」を新たに導入して対策を進めています。

※離床センサーの選択基準や効果については今号の『現場リポート』でご紹介しています。

5. メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

患者さんが立ち上がったから報知するのでは転倒の危険度が高く報知タイミングが遅いのですが、ベッド上は自由に過ごし、スタッフも患者さんを見守れるような場合は、サイドコールを使用しています。しかし、患者さんのベッド上の体勢によっては頻回に報知してしまうことがありますので、報知タイミングは同じでも特定の動きだけに反応するセンサーが欲しいです。世間では AI 技術が注目されていますが、離床センサーにもそんな機能があったら良いですね。

6. 何か一言お願いいたします。

病院様の PR や、寺島様のポリシーなどをお聞かせ下さい。

当院は県民の為の病院で 3 次救急病院・がん拠点病院・災害拠点病院でもあります。患者さんの受け入れは断りません。そんな中でスタッフは非常に優秀で一生懸命に頑張っています。スタッフを少しでも支援できるように私自身が生き甲斐をもってプラス思考で明るく頑張っていきたいと思っています。